

『グローバル会計研究』創刊に際して

グローバル会計学会会長 菊谷 正人

「グローバル会計学会設立趣旨書」で述べられているように、国際財務会計・国際企業報告、国際管理会計、国際税務会計、国際会計監査などを広く包含する「国際会計」を深耕する「グローバル会計」を構築・展開する学会として、「グローバル会計学会」は平成30年3月に設立された。

本学会は、法制度やビジネス慣行など、広く各国のローカル文化的特性にも強い影響を受け、「グローバル化＝統一化」と「ローカリゼーション＝多様化」との文化概念的対峙に関して、両者の最適共存関係のもとで新たなグローバルかつローカルな会計文化の創造を目指さず学会であり、グローバル会計に関する多種・多様な課題を解決するための学会として動き始めたばかりである。

ここに『グローバル会計研究』創刊号（第1号）を上梓できたことは、グローバル会計学会が学会として第一歩を踏み出し、本格的な研究活動を開始したことを意味する。記念すべき創刊号には、平成30年3月10日に法政大学で開催された創立総会とともに行われた研究報告および平成30年8月4日に法政大学で開催された東日本部会の研究報告のうち寄稿された論文につき、厳正な査読を受けた6篇の論文、さらに創立総会における古賀智敏先生の記念講演「国際会計研究の論点と課題－四半世紀にわたる国際会計研究の歩みから－」が掲載されている。

国際会計あるいはグローバル会計に精通した研究者により構成されている本学会における報告、それに対する濃密な討論および本機関紙に収録されている論文を通じて、グローバル会計の発展・向上に貢献できるならば、本学会の設立目的は達成できる。そのためには、会員による高度・広範な研究および会員相互間の切磋琢磨・研鑽が必要であり、会員の積極的な学会活動を期待したい。